

平成26年度 学校評価書（誠英高等学校）

学 校 目 標	一人ひとりを大切にし、確かな学力と柔軟な精神力を身につけ、たくましい社会を生き抜く力を育む。
重 点 目 標	①国語力の重視と基礎学力の不足を補う工夫と、各科に応じたシラバスの作成と評価法の吟味を行う。 ②建学精神を伝授し基本的な生活習慣を確立させる。また、教職員との信頼関係を構築し、生徒相互間の好ましい人間関係を育成する。 ③幅広いキャリア教育の展開と学年に応じた段階的指導を行う。 ④事務業務の簡素化に取り組む。

学 校 自 己 評 価				
目 標			評 価	
番号	重点目標	具体的方策	取組の成果	次年度への課題と改善
①	国語力を重視し基礎学力の不足を補う工夫と、各科に応じたシラバスの作成・評価法の吟味を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 漢字テストの効果的利用と常用漢字の読み書きの慣用指導。 静思抄を通じた正しい言葉と文字の慣用指導。 シラバスの作成と効果的な活用及び内容の見直しを行う。 指導過程における適切な PDCA サイクルの確立。 適切な授業評価の実施と評価の効果的活用の実践。 	静思抄を通じ、話し言葉で記入するのではなく正しい言葉で文章表現ができることを目標とした。内容は、学年での統一テーマや担任が設定したテーマで記入することで、生徒とのコミュニケーションを図ることもできた。また、漢字学習の成果も見ることができた。 生徒による1週間ごとの自己評価も行い、週目標・反省を繰り返すし、目標を持って学校生活を送ることができた。 シラバスについては、全教科新課程に移行するのに合わせて検討中である。授業においては単元ごとの確認テストや個別補習授業を行うなど科・コースを意識した教科指導に取り組むことができた。	本校の伝統である静思抄の活用を今まで以上に活発にする。教員・生徒間のコミュニケーションを図るだけでなく、いじめ、問題行動等の早期発見につなげる。短時間の朝学を習慣化し、漢字テストの取り組みだけでなく、各科・コースに応じた内容の問題にも取り組む。
②	建学精神を伝授し基本的な生活習慣を確立させる。また、教職員との信頼関係を構築し、生徒相互間の好ましい人間関係を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 授業、学校行事等を通じた校訓の理念と精神の指導を徹底する。 さわやかな挨拶、身だしなみ、礼法の指導の徹底を図る。 正しい言葉遣い、状況・立場に応じた行動と敬語の指導。 いじめの防止、早期発見、迅速対応、適切な措置を徹底する。 生徒間トラブルの防止、思いやりの心と協調性を育成する。 保護者・家庭との連携強化を図る。 部活動への積極的な参加・加入を呼びかける。 規律・マナーの習得を目指した指導の徹底を図る。 	建学の精神については、毎月行われる月頭訓話を基に担任もLHR等で指導した。特に新生生には時間をとり徹底した。 例年通り、校門指導・週番活動・月一回の服装頭髪指導で学年クラスの枠を越え、挨拶・身だしなみ・礼法指導を行うことができた。 服装頭髪指導については期限を切り再検査を実施し徹底を図った。学年・クラス間での情報交換だけでなく保護者とも連携を図りいじめ防止に努めた。部活動への参加加入については例年通り行い、部の活動内で規律マナーについての指導も行われた。熱心な顧問の指導により様々な実績を残した。	創立90周年を来年度迎えるにあたり、建学の精神についての講話や行事を行うことで本校に対する帰属意識を高める。 服装頭髪指導で注意を受ける生徒はいつも限られているので、その生徒たちに対する指導方法を検討する必要がある。
③	幅広いキャリア教育の展開と学年に応じた段階的指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の意義と必要性の認識徹底を図る。 年次指導による系統的・段階的な指導体制を実践する。 	例年通り、各学年に応じた進路ガイダンスを行い、生徒自らの適性と職業とのかかわりを考えさせ、将来の自分の姿を設定させることができた。	進路指導に関する情報を定期的に保護者に伝える方法を検討する必要がある。
④	事務業務の簡素化に取り組む。	事務的提出書類等のデジタル化を図る。	情報や連絡の徹底を図るには紙面とHP・デスクネットのあらゆる方法で取り組み、ミスが無くなった。	簡素化よりも効率化を図る。